

# 令和4年度 自己評価報告書

令和5年3月  
岐阜県立多治見看護専門学校

## 1 本校の概要・・・資料1

本校は、以下の教育理念の下、学生教育を実施している。

「生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。」

## 2 令和4年度 組織目標及び実績・・・資料2・3

### (1) 優秀な学生の確保

- ・広報活動はコロナ感染症蔓延のため、例年より規模を縮小または中止せざるを得なかったが、その時々で出来ることを検討し実施した。
- ・入学案内は他校と比較し見劣りしないよう、表紙の紙質を変更した。
- ・直接の高校訪問は出来なかったため、今年度も東濃地域・中濃地域、12市町の27校に電話訪問を行い当校のPRをした。また、県内の高校54校に入学案内を郵送した。
- ・リモートでのオープンキャンパスを実施、参加者は延べ166名であった。
- ・1年生の母校訪問9校17名実施、高校や業者が主催する進学ガイダンスに15回参加した。
- ・学校のアピールをするために、ホームページの写真(行事・授業風景)を3～4か月に一度更新した。

### (2) 教育環境の整備

#### ・ICT教育に関する環境の整備

タブレットを使用した授業は年間148回実施。自宅待機となった学生には、リモートで講義を聴講する体制を整え、年間363回実施した。学生にアカウントを付与した運用を開始するが問題はない。

8月には下呂看護専門学校とTeamsでの接続テストを実施し課題を明確にした。

2月には衛生専門学校の歯科衛生学科と学生間交流を実施した。

岐阜DX支援センターとの連携が開始となり、教育支援システムの説明会が行われた。

健康観察シートのICT移行を検討し、スマートフォンを活用した入力を学生・教員共に試行した。

電子教科書導入にむけて、業者のオンライン説明会に参加するなど取り組みを始めた。

#### ・その他の環境整備

県有施設の感染防止対策事業で要望し、40万円の予算で自立式体温感知カメラ1台と暖房機6台、サーキュレーター8台を購入できた。

図書室・視聴覚室のレイアウトを変更し、学生の個人学習スペースを確保した。

学生用のプリンターを購入し自由に使用できる環境を整えた。

職員用の防災マニュアルを作成した。

意見箱の設置を2か所に増やし、場所を変えたことで、多くの意見が入るようになった。

倉庫内の不用品を廃棄し、使用しやすい環境を整えた。

### (3) 予算執行・学生生活支援

- ・限られた予算の中で、臀部注射モデル(20万)、小児のモデル人形(26万)、耐火金庫(31万)を購入。さらに倉庫内の不用品の廃棄をすることができた。

- ・日本学生支援機構奨学金15名の事務手続きを実施した。

### (4) 新カリキュラムの適正な運用

- ・令和4年度入学生から新カリキュラムの運用開始し、更に授業開始時間を20分繰り上げたが、大きなトラブルもなく、1年間運用することができた。

- ・新カリキュラム評価委員会を9回実施した。1年次の終了科目の時期・進度・内容等について評価し、次年度の計画に繋げた。また次年度実施予定の実習内容を具体的に検討し、実習連絡会で各部署の指導者に説明することができた。

(5) 教員の教育活動の充実、看護実践能力の維持・向上

- ・授業研究委員会で、主体性を促す授業・ICTを活用した授業を構築し教員の教育力向上に向けて取り組んだ。委員会を11回実施し、今年度より開始となった、生涯学習入門や形態機能学の授業内容を検討した。
- ・ほとんどの教員が授業参観を1回ずつ実施。リフレクションで他教員から助言を受け、自分を振り返り、今後につながる機会となった。
- ・キャリアラダーの継続。校長・教務主任と共に教員に必要な能力についての達成状況を9月と2月の年2回確認し、各自目標を明確にした。
- ・コロナ感染症蔓延のため、リモートによる学会・研修会に参加し、伝達講習を実施した。ICT教育のスキルアップのため、電子黒板の勉強会を実施した。
- ・短期研修は、実習病院で1名実施した。
- ・実習記録が多すぎるという学生・実習施設の意見を基に、記録用紙の見直しを図るため、実習記録検討会を立ち上げ検討に取り組んでいる。

3 学校評価項目の達成及び取り組み状況

1) 学校経営

資料4

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のビジョンと組織目標を策定し、その目標が教職員に理解されているか。</li> <li>・組織目標に対する評価を実施し、結果を教職員に周知し次年度の目標につなげているか。</li> <li>・学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知し外部にも公表している。評価結果をもとに改善計画を策定しているか。</li> <li>・管理職のリーダーシップのもと、係長又は教務主任が部署をまとめ問題解決に当たっているか。</li> </ul>	<p>4. 5 (R3年度4.1)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・組織目標は職員会議で周知し、全職員で連携しながら問題解決にあたることができた。
- ・**学校評価**を9月と2月の2回実施した。評価結果は職員会議で周知し、中間評価結果は後期の学校運営に繋げ、2月の評価結果を次年度の学校運営目標に繋げた。また**学生の学校評価**、外部委員による学校関係者評価を実施し、職員会議で周知するとともに、その結果を学校運営計画に繋げた。また 必要時はミーティングや各種委員会で情報共有をして問題解決に努めている。
- ・学校評価結果はホームページで公表した。

2) 学科運営

資料5～7

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時に持つべき資質をディプロマポリシー、教育目標に明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。</li> <li>・学習内容は教育理念・教育目標と一貫性があり時代の要請に応える内容になっているか。</li> <li>・授業計画(シラバス)が作成され教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。</li> <li>・効果的な授業運営を図るため適切に時間割を調整しているか。</li> <li>・授業内容や指導方法が学生レベルに合うよう工夫・改善しているか。</li> <li>・学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。</li> <li>・実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。</li> </ul>	<p>4. 1 (R3年度3.9)</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導者と教員(実習指導教員)の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。</li> <li>・学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、評価について公平性・妥当性が保たれているか。</li> <li>・実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。</li> <li>・実習時のインシデント・アクシデント等を分析し学生指導に活かしているか。</li> <li>・学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。</li> </ul>	
--	--

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・卒業生と卒業時の3年生に**カリキュラム評価**を実施し卒業時の到達目標の分析を行った。
- ・令和4年度入学生から新カリキュラムの運用開始。ICT 授業を他校と繋ぐことを前提に、県立の2校(衛生専門学校・下呂看護専門学校)と授業開始時間に差が生じないように、授業開始時間の20分繰り上げも実施した。事前に学生・外部講師には説明したため、トラブルもなく1年間運用することができた。
- ・新カリキュラム評価委員会を9回実施した。1年次の終了科目の時期・進度・内容等について評価し、次年度の計画に繋げた。
- ・授業計画(シラバス)は、シラバス委員会が中心となり、毎年教育課程の評価を行い、学生・講師が授業内容を理解し、活用しやすいように修正している。
- ・授業内容や方法については、科目終了後に学生による**授業評価**を実施し、その結果も踏まえた上で教員は**総括**を実施している。総括をもとに教務会で検討し、次年度の授業内容や指導方法の改善に繋げている。
- ・学生が単位取得できるように、年度初めにはガイダンスで学年目標、一年間のスケジュールの確認をしている。
- ・濃厚接触者又は体調不良後の経過観察などで自宅待機となった学生には、リモートで講義を聴講する体制を整え、単位取得の支援を行っている。リモート講義は、昨年度の66回から、今年度363回に飛躍的に増え、ほぼ毎日どこかの学年が実施している状況であった。2年生の原級留置学生2名に対しては、旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行認定会議を行い、次年度学生がスムーズに単位取得できるように支援した。
- ・科目の開始時には科目目標と内容、評価について説明をしている。また、講義で未修得単位のある学生については、随時、個別指導を実施し単位取得に向けた支援を行っている。実習で未修得単位のある学生については、実習予定の1か月前より事例に沿った、看護過程の展開や援助技術を実施させ、不足部分については指導を繰り返すなど、密に支援を実施している。
- ・主たる実習施設とは年間5回の**実習連絡会議**を計画したが、コロナ感染症蔓延のため、2回は書面報告とした。11月開催時には、次年度実施予定の新カリキュラムの実習内容を具体的に説明することができた。各病棟・部署とは担当教員が個別で調整を密に行っている。その他41か所の実習施設とは、実習開始前と終了後の2回調整会議を実施し、実習指導者と連携をとっている。学生が効果的に学べるよう今後も調整していく。
- ・新カリキュラムで今年度より1年生の5月に開始となった、地域・在宅看護論実習Iは新規実習施設3か所を含む14か所で、ご協力いただき、無事実施することができた。基礎実習の前の地域を知る実習は学生の視野を広げるよい結果となった。
- ・修了認定のための評価基準と方法については、シラバス・実習要綱への記載や一部別紙での公表を行っている。
- ・実習時のインシデント・アクシデントは、まずは第一報をするために所定の様式を作成し使用したことで、迅速な報告・共有につながっている。また、実習指導学習会・インシデント学習会を年間2回開催し学生指導に活かすことができた。引き続き実施していく。
- ・各実習終了後、実習中の自己を振り返る機会を設けている。実習中はみえていなかった自分自身を客観的に振り返り、自己の発見と成長した自分を認める機会となっている。このことは、自己を肯定的に受け止めることにつながるため今後も継続していく。

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの応募者を確保することに努めているか。</li> <li>・国家試験の合格者が100%となるよう教職員一丸となって取り組んでいるか。</li> <li>・質の高い卒業生を多く輩出する為の努力を行っているか。</li> <li>・卒業生の支援を行っているか。</li> <li>・卒業生の県内就職率を高めるように努めているか。</li> </ul>	4.0 (R3年度3.8)

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・優秀な人材確保に関する事業として、1年生の**母校訪問**(9校17名)、高校や業者が主催する**進学ガイダンス**の参加(15回)を実施し、当校の魅力を伝えた。コロナ感染症蔓延のため、直接の高校訪問は出来なかったため、全職員で、東濃地域・中濃地域、12市町の27校に電話訪問を行い当校のPRをした。また、県内の高校54校に入学案内を郵送した。
- ・総合庁舎1階の電光掲示板(デジタルサイネージ)で当校のオープンキャンパスを知らせることができた。
- ・オープンキャンパスはリモートで実施、進学ガイダンス45名、学校案内47名、模擬授業体験44名、先輩と語る会23名、進路相談7名、延べ166名の参加があった。
- ・3～4か月に一度ホームページの更新や、おりべネットワークによる卒業式の配信などを通して、当校のアピールを行った。
- ・以上の取り組みを行ったことで、他校でも受験者数の減少がある中で、前年度比84.8%(前々年度比101.5%)の受験者を確保することができた。
- ・**入学生にアンケート**を実施し、それらの情報を募集の方法等に活かすことができた。
- ・入学案内に、アドミッションポリシー(本校の求める学生像)を記載し、機会あるごとにアドミッションポリシーを説明することで、本校が求める入学生の確保に努めている。
- ・国家試験合格に向けて、3年生は全教員による少人数担当制の指導を実施し、学習面だけでなく精神面での支援を行っている。コロナ感染症対策として、国家試験2週間前より自宅研修としたため、担任・副担任がリモートでの学習支援を行い、今年度は国家試験に全員合格することができた。
- ・入学時の学力の低下は著明のため、1年生から3年生までの担任・副担任で国家試験対策チームを作り、低学年時からの支援をしていく方法を意見交換しながら取り組んでいる。
- ・卒業生の**主な進路**は例年、県内の東濃及び中濃圏域の医療機関への就職が大部分を占め、とりわけ県立多治見病院への就職が、今年度は80%近くとなっている。また、保健学科、助産学科へ各1名ずつ進学した。
- ・卒業生の支援として、**卒業生交流会**(ホームカミングデイ)を8月に実施。コロナ感染症蔓延で、リモートでの実施となったが、9名(37.5%)と昨年度より多くの参加者であった。卒業生同士、また教員と語ることで、情報交換、リフレッシュの機会となっていた。昨年に引き続きメールでのお知らせと、今年度は就職先にも働きかけたことが、参加者増加に繋がったと考える。しかし、アンケート結果から、就職先への働きかけを快く思わない卒業生がいることも分かった。
- ・県内就業に関しては、進学ガイダンスなど入学希望者に説明をしている。入学時のガイダンス、個別の就業相談時にも指導・助言を行った。就職試験が早くなっているため、1年次から長期休暇にはインターシップへの参加を呼びかける計画であったが、今年度はコロナ感染症蔓延のため、参加に至らなかった。
- ・1年生に対して、1月には4施設の卒業生を迎えて、**先輩と語る会**を開催した。更に2月には看護協会長を講師に迎え、看護師としての働き方について講義いただき、進路について具体的に考える機会とした。
- ・3年生の希望者には模擬面接を行い、採用面接者の意図を理解し、的確に対応できる能力を養うように努めた。

## 4) 学生生活への支援

資料 14～18

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。</li> <li>・経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。</li> <li>・学生の身体的側面の健康確保に努めているか。</li> <li>・サークル活動などの学生の自主的な活動を支援しているか。</li> </ul>	<p>3. 6 (R3 年度 3.6)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・**学生生活の実態**について調査を実施した。集計結果は学校評価委員会で共有し、結果を学生の生活・学習などの支援に活用している。また学生の意見で至急対応が必要なものについては、全職員で共有し改善に向けた取り組みをしている。
- ・実習記録が多すぎるとの意見があるため、今年度は実習記録検討会を設けて、学生の負担が少しでも改善できるような記録方法について検討を重ねている。次年度には実際に活用できるように引き続き検討していく。
- ・学生の定期健康診断の結果を校医に報告し、要受診学生への指導と結果の把握に努めた。日々の学校生活では教員による学生の健康管理を行い、必要時は校医と連携し専門医への受診等を助言している。
- ・コロナ感染症対策として、学生、職員ともに1日4回の検温を実施し、毎朝健康観察シートと行動記録表を提出させチェックを行っている。コロナ感染症については、家族の感染で濃厚接触者となったり、家庭内感染などのケースも増えた。自宅待機となった場合は、担任・副担任が個別で体調確認を行い、教職員で情報共有を行っている。判断に困るケースは、多治見病院の看護部を通して、感染管理ナースに相談し、学生や職員の行動を決定することで、安全確保に努めた。
- ・健康観察シートは毎朝登校時に記載したものを提出させ、教員が一冊ずつチェックしていたが、3月に学生・教員共に **LoGo フォーム**(自治体専用のデジタル化総合プラットフォーム)を活用し、スマートフォンからの入力を試行した。学生には手書きより簡単であるとは大変好評であった。さらに教員の確認も1学年分が一覧表で確認できるため業務の改善に繋がっている。次年度も引き続き継続するとともに、授業アンケートなどへの活用も検討していく予定。
- ・コロナワクチンは希望者に対して、多治見病院で接種していただき、5回目の接種を済ませることができた。
- ・小児感染症の予防接種は、抗体価の結果に基づき、計画的に接種するよう指導した。例年は1年次にほぼ終了できているが、今年度はコロナワクチン接種も重なったため、やや遅れている学生もいる。
- ・**休学者・退学者**については、入学前に描いていた学校生活との違いや、学業不振を理由に、進路に迷いを生じる学生がおり、そのうちの80%近くが1年生の傾向である。入学時から学生の状況には担任・副担任を中心に、全教員で気を配り、必要時は声掛けや面談を実施している。
- ・心の不安定な学生が増えており、月1～2回専門の**カウンセラーによる相談日**を設け、今年度は延べ10名の学生が利用し、昨年度より増加した。相談室を利用せず、自己にてメンタルクリニック等を受診している学生も数名あり、状態の把握に努めている。
- ・担任・副担任を中心に学生面談・学生指導を行っている。また、実習に関しては実習調整者を中心に支援体制を整えている。必要時は**保護者面談、保護者への電話連絡**などで、学生の状況説明と支援要請を行った。
- ・経済的な問題を抱えている学生も一定数在籍していることから、日本学生支援機構等が運営する**奨学金**制度(給付・貸与)を積極的に紹介し、希望者に対しては申請書の作成支援や運営主体への推薦を行った。また国の高等教育修学支援制度に基づき、修学金の支援に加えて、15名に対して授業料や入学金の減免を行っている。
- ・成績優秀者(14名)については、卒業時に**表彰**を行った。また皆勤者(1名)については学生会が表彰した。
- ・茶華道部とスポーツ部のサークル活動が現在は休止状態のため、コロナ終息後は学生の意向を確認しながら自発的な取組への支援をしていく。

5) 教職員の育成

資料 19～21

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の抱えている課題をふまえた職場内研修を行っているか。</li> <li>・学会又は研修会に参加した成果を他の教員に還元する仕組みがあるか。</li> <li>・教員が計画的に臨床実務研修に参加できるよう支援しているか。</li> <li>・教員の授業を他の教員が参観・講評できる体制を整えているか。</li> <li>・教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか</li> </ul>	<p>3. 8 (R3 年度 3.5)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・職員会議を活用し、ハラスメント防止・セキュリティ対策などの職場内研修を行った。また**学会・研修に参加**した教員は、教務会で伝達講習を実施している。
- ・教員間で、関わりに困難を感じている学生への対応について学習会を行った。各教員が困難を感じている状況を出し合うことで、学生の傾向をとらえることができた。さらにそれらの学生へ具体的な関わり方について意見交換することができた。また、学内で発生したアクシデントについて学習会を行った。事案の背景にある状況を様々な視点から振り返り、対応策など率直な意見交換を行った。このことから統一した支援方法を確認するとともに、マニュアルに明文化した。
- ・臨床実務研修については、次年度の新カリキュラムで開始となる成人看護学実習に向けて、病棟との調整、実習内容の確認のため、1名実施した。次年度も計画していく。
- ・2年目教員に対しては、プリセプター教員を決め計画的に支援を行った。評価を行い、教職員間で情報共有をしながら、全職員で育てていくよう支援をしている。次年度は新人教員の採用を計画しているため、新人支援プログラムの見直しを行い、3月に完成させた。
- ・**キャリアラダー**で、校長・教務主任と共に現在の教員に必要な能力についての達成状況を9月と2月の年2回確認し、各自目標を明確にすることができた。
- ・今年度全教員が**授業参観**を実施、終了後リフレクションをすることで、授業内容や方法の改善に繋げた。また**授業研究委員会**を12回実施し、今年度から新たに開始となった、看護形態機能学・生涯学習入門Ⅰの授業設計・授業案を作成した。更に岐阜県看護教育連絡協議会事業の一環として、県内の他学校の教員5名にもリモートで参加していただき、授業参観を実施した。リフレクションでは次年度に活かせる多くの意見をいただいた。以上のように、主体性を促す授業・ICTを活用した授業を構築し教員の教育力向上に向けて取り組んだ。
- ・電子黒板の使用方法が曖昧であったため、再度業者の説明を聞き、教員間での勉強会を実施した。
- ・電子教科書について、オンラインセミナーを受講した。

6) 管理運営・財政

資料 22～24

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算計画・年間行事計画を策定し適正な予算の執行・進行管理を行っているか。</li> <li>・学生や教職員等の人権・個人情報について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。</li> <li>・災害などの非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。</li> <li>・学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。</li> </ul>	<p>4. 3 (R3 年度 3.8)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・年間計画に基づき、計画的に予算・事業執行を行っている。
- ・学校が保有する個人情報については、「岐阜県情報セキュリティ対策基準」に従い管理している。

- ・個人情報保護は、学生へ繰り返しの指導を行うとともに、実習の記録やメモ帳の管理については、詳細なルールを決め、それに従い管理している。現在問題となっているソーシャルメディア利用の注意点については、学校生活案内に明記し、年度初めのガイダンス、各実習前のオリエンテーション、解剖見学のオリエンテーションなど、機会あるごとに指導を行っている。今年度は各実習前に**個人情報保護、医療安全の意識を高める取り組み**を計画し実施した。
- ・学生の防災意識を高めるよう、年度初めに防災訓練・防災に関する講話を計画したが、コロナ感染症蔓延のため、全校一斉で避難訓練を実施することができなかった。1年生のみ避難訓練を実施、他学年はシェイクアウト訓練、メールによる安否確認訓練を行った。また全学年リモートで消防士の講話を聴いた。
- ・長年の課題であった、教員に向けての**防災マニュアル**を作成することができた。特に実習施設での学生の安否確認方法について検討を重ね、職員会議の場で、全職員で共有することができた。
- ・学生へのメールの一斉送信や個別の送受信で、コロナ禍でもスムーズに学生に情報伝達をすることができた。
- ・学生の意見・要望を聞くために意見箱の設置をしている。また、入学時アンケートの実施、さらに学生生活実態調査、学生による学校評価を実施した。学生の意見・要望については倫理委員会、運営会議、学校評価委員会において対応を検討し、速やかに対応した。
- ・年末に**意見箱**の位置を、学生が入れやすい場所(学生玄関入口、睦館2階更衣室前の廊下)に変更し、一個から二個に増やした。更に校長より学生の生の意見を聞きたいことを伝える機会を作った。意見箱は令和2年9月に一度意見があったのみで、ほとんど入ることがなかったが、1月以降4件の意見があり、寒さ対策についてやパソコンの保管方法など、学生の意見を取り入れるように変更をした。また学生からの直接の意見で、2ヶ所に瞬間湯沸かしケトルを設置したり、電子レンジ2台中1台を三階に移動するなど、分散昼食を実施している学生たちが使いやすいようにした。

## 7) 施設設備

資料 25

評 価 項 目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障がい者の利用に配慮された構造になっているか。</li> <li>・教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また、学生の自主的な学習の場が確保されているか。</li> <li>・学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。</li> <li>・図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。</li> <li>・実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い十分にその機能を果たしているか。</li> </ul>	<p>3. 4 (R3 年度 3.0)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・耐震基準は満たしているが、障がい者の利用ができるようにはなっていない。トイレは数が少ない上に洋式便器は各階1か所しかないことで、引き続き学生からの改善要望も多い。トイレ改修工事の希望を続けているが実現できていない。引き続き機会あるごとに要望をしていく。
- ・タブレットを使用した授業は昨年度 28 回、今年度は 148 回実施。各教員が年間を通して実施することができ、学生も戸惑いなく使用することができている。
- ・リモート講義は今年度 363 回実施し、学生個人にアカウントを付与した運用も開始できた。
- ・今年度は 8 月には下呂看護専門学校と Teams で接続テストを実施し、課題を明確にした。2 月には衛生専門学校の歯科衛生学科と学生間交流を実施できた。
- ・岐阜 DX 支援センターとの連携も開始となり、教育支援システムの説明会も行われた。睦館や教務室の W i - F i 環境が整っておらず課題となっているため、県と連携し予算獲得を目指していく。
- ・令和 3 年度教室の窓に網戸をつけたことで、授業中に蜂が入り授業が中断することはなかった。

- ・教育目標達成に必要な備品の購入については、毎年計画的に実施してはいるが、多くの備品が老朽化や陳腐化が目立つなど、今の医療が学べる備品の計画的な整備が課題である。今年度は臀部注射モデル(20万)、小児モデル人形(26万)を購入。更に学籍簿保管用の耐火金庫が容量オーバーとなったため、2台目を購入(31万)した。
- ・**教育環境の整備**として、7月には学生が自由に使用できるように、視聴覚室にプリンターを設置した。また県有施設の感染防止対策事業で要望し、40万円の予算で自立式体温感知カメラ1台と暖房機6台、サーキュレーター8台を購入できた。
- ・8月には図書室・視聴覚室のレイアウトを変更、学生が個人スペースを確保し学習できるような環境を整えた。学生玄関周辺を整理し、学生が就職の募集案内を見やすいように設置した。
- ・学生の希望があり、11月に学生が昼食時に使用できるよう、瞬間湯沸かしケトルを多目的室と3階炊事室に設置、12月に上着がかけられるよう教室にハンガーを設置した。
- ・学生の意見が入れやすいように意見箱を2個に増やし、設置場所を変更した。
- ・1月に図書室の学習スペースにスクリーンと半透明の亚克力板を設置し、学生が集中して学習できるようにした。また各教室のキャビネットに鍵を取り付け、パソコンプロジェクターを教室で保管できるようにした。
- ・2月に学生の要望により学生の使い勝手がいいように、多目的室に設置してあった電子レンジを1台3階炊事室に移動した。
- ・3月に県のワクチン接種会場から各種物品を譲り受けた。衛生材料などを整理するため、倉庫に棚を設置し、同時に倉庫内の不用品を廃棄し、使用しやすい環境を整えた。また学生玄関に自立式体温感知カメラを設置した。学生用のカラープリンターも設置した。
- ・図書室の配架を学生が見やすいように変更した。また新刊コーナーを作り見やすい工夫を行っている。引き続き、学生が使いやすいよう工夫していく。現在、図書室の蔵書が少ない、内容が古く必要とする物がなかなか無いという学生からの意見もある。隣の県立多治見病院の職員図書館が学生・職員も利用できるよう許可をいただけたことから、機会あるごとに利用を勧めていく。

## 8) 広報・社会貢献、地域活動

評価項目	評価点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の存在を周知するためホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。</li> <li>・地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。</li> </ul>	<p>3.0 (R3年度3.1)</p>

評価点：よい5 ややよい4 普通3 やや不十分2 不十分1

- ・ホームページ委員により、3～4か月に一度、行事や授業風景の写真を更新し、自校のアピールを行った。さらに見やすい、興味が持てるようなホームページの充実に向けて検討していきたい。
- ・卒業式には、おりべネットワークによる取材があり、当校のアピールに繋がった。
- ・地域活動としては、多治見社会福祉協議会の福祉祭に3年生がボランティアで参加した。
- ・今年度も学校祭は中止となった。

## 4 総合的な評価

本年度に定めた組織目標は、本報告書に記載したとおり概ね実施できており、目標達成できていると評価する。また、評価項目の達成及び取り組み状況は、コロナ感染症蔓延のため、実施できなかったことも多い中で、できる方法を模索しながら実施したことで、8カテゴリー中、昨年度より6カテゴリーは評点がアップした。また平均評点も0.2点アップしたことから、適切に実施していると評価する。

— 以上 —